

荒尾市の万田坑を含む「明治日本の産業革命遺産 九州・山口と関連地域」とは

荒尾市の万田坑を含む「明治日本の産業革命遺産 九州・山口と関連地域」は、8県11市にまたがる23の資産で構成される産業活動に関わる遺産の集合体です。

日本は19世紀後半からおよそ50年という短期間で製鉄・鉄鋼、造船、石炭産業の急速な産業化を達成。このことは経済的な発展を成し遂げる礎となりました。

日本の近代化は西洋諸国から技術や知識、機械などを積極的に導入し、日本独自

の技術に置き換え、試行錯誤を繰り返しながら成し遂げられました。

本遺産群は貴重な遺産を一つにまとめることで、日本独自のものづくりの文化や、世界的にもまれな日本の飛躍的な発展の過程などを時間軸に沿って伝えることができる珍しい事例です。

そのため、広範囲に存在する複数の資産を一つの遺産とする「シリアルノミネーション」という方法で世界遺産登録を目指しています。

世界遺産が 私たちにもたらすもの



世界文化遺産登録を目指す万田坑（荒尾市）。登録が実現すれば、荒玉地区で初めての世界遺産が誕生することになります。

②作業員は深さ約270mの垂直の穴から、ケージ（定員25人）に乗り、1分間ほどで坑底に降りていました。



②第二豎坑坑口



◀ケージ



①第二豎坑巻揚機室

① 作業員を乗せたケージをワイヤーで吊るし、直径4mのドラムを使って巻き上げていました。

万田坑ガイドが 教える！



万田坑ファン倶楽部会長 瀬戸洋さん（荒尾市）

万田坑の見どころ

万田坑とは 万田坑は、三井が総力を挙げて整備した日本最大規模の堅坑です。三池炭鉱の坑口の一つとして、明治35（1902）年に出炭を開始しました。大正から昭和にかけて各施設を電化するなど設備や機械の充実が図られ、三池炭鉱の主力坑として活躍しました。



元炭鉱マン 前田重光さん（和水町）

全身真っ黒になりながら、15年間炭鉱で働いていました。亡くなった仲間のためにも、国の発展に尽力した先人の思いや炭鉱の歴史を次の世代に伝えていってほしいです。



玉名温泉観光旅館協同組合理事長 草村幸寛さん（玉名市）

「玉名温泉は連日連夜、炭坑節が聞こえよったたい」と炭鉱景気に沸いた昭和30年代の話了他界した父が話していました。観光客の世界遺産景気が訪れてほしいですね。

万田坑の世界遺産登録を 応援しよう！



荒尾市マスコットキャラクター マジャッキー

